

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(英語)
／眞野 美穂

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

今年度から本格的に小学校での外国語活動が開始される。そのような中で「英語学」を専門とする私は次の二点を目標として授業を行いたいと考える。

①英語学の専門的観点から、英語教員を目指す学生、小学校英語について学ぶ学生や現職教員の再教育のために、より多彩な観点から英語を捉え、言語とその背景にある人間や文化について興味と知識を得られるような授業を行う。

②言語教育には言語を客観的に観察・分析する能力が重要だと考えられる。その育成のため、授業内で客観的な言語の分析課題を積極的に実行し、観察・分析能力の育成を行う。

上記の目標を踏まえた上で、具体的には、英語の音声・音韻、文法、語の特徴などを様々な側面から分析することを旨とした授業を展開し、実践力につなげたいと考えている。

2. 点検・評価

当初の目的通り、授業の中で特に外国語活動に関連する内容を今年度は積極的に取り入れ、授業を行った。重要となる発音や文法的側面、非言語コミュニケーションの知識など、様々な授業を通して、指導を行った。また、主体的に英語に関する情報を収集し、現象を観察し、分析する能力を養うために、授業内で考えさせる問題、調べさせる活動などを積極的に取り入れた授業を学部、院を通して展開し、受講生からは概ね好評をえた。それに加え、一般英語に関するプロジェクト経費が採択されたことから、学生の英語力の現状と課題を分析し、その成果をまとめたものを現在学内学会誌に投稿中である。来年度、一年間の英語力の変化を見る実力テストを行うことで、一般英語カリキュラムの改善に向けて、その課題を明らかにしたいと考える。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

学生の教育・生活支援の一環として以下の内容を今年度は実行したい。

①コース内、または授業内での学生とのコミュニケーションを積極的に行い、現状の問題点や悩みなどの早期発見を目指す。特に一年生担任として、学生支援に努めたい。

②オフィス・アワーを設け、学生の学習面、生活面、などの相談にのる。

③授業内やゼミにおいて、学校教育の現状についての情報を提供し、就職支援に結びつける。

④ゼミにおいて、積極的に採用試験対策、英語力の改善を目指す。

2. 点検・評価

計画に示した通り、学生の教育・生活支援を以下のような内容で実行した。

- ①1年生の担任として、積極的にコミュニケーションをとり、問題の早期把握に努めた。また、担任以外の学生に対しては、授業内外で積極的に話をすることで、状況を把握し、相談に乗れる体制づくりを心掛けた。
- ②オフィス・アワーを設け、学生の質問や相談を受け付けた。
- ③授業とゼミを通し、英語教育や学会の動向などの状況を提供した。またゼミ生を連れて、実際の授業現場を訪問し、その状況を知る機会を設けた。
- ④ゼミにおいては学部・修士共に、課題などを通した英語力の伸長、論理的思考力の向上に努め、将来の進路について相談にのり、支援に努めた。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

研究面での今年度の目標・計画は以下のとおりである。

- ①現在分担者として執筆中の学生・大学院生、英語教員向けの書籍を出版し、教育研究活動の成果を広く発表したい。
- ②現在取り組んでいる研究テーマについて、成果発表を行う。
- ③昨年度より参加している大学共同利用機関法人国立国語研究所のプロジェクト(日本語学習者用基本動詞用法辞典の作成)に今年度も継続して参加し、研究面での社会貢献を目指す。

2. 点検・評価

年度計画は、以下のように達成することができた。

- ①分担執筆者として執筆を行った学生、英語教員向けの書籍が2011年11月に発行され、研究成果を社会に還元することができた。
- ②研究成果を学術雑誌に投稿することができた(現在審査中)。
- ③国立国語研究所のプロジェクトに参加し、現在辞書の草稿の一部を執筆、提出し、現在改訂作業中である。また、年度目標には含めていなかったが、一般英語に関するプロジェクト経費が採択されたことから、本学の学生の英語力の現状と課題を調査し、その成果をまとめたものを現在学内学会誌に投稿中である。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

大学運営に関する目標・計画は以下のとおりである。

- ①学部入試委員会委員として、入試に問題が生じないように確認に努め、本学の運営に貢献したい。
- ②入試委員会の専門部会である「入学者選抜専門部会」に継続して参加する予定であるが、その中で入学者選抜の現状と今後の課題について明らかにしたい。
- ③研究推進委員会委員として、本学の研究がより活発に行われるよう、その職務を全うしたい。

2. 点検・評価

計画通り、以下のように大学運営に携わり、目標を達成した。

- ①学部入試委員会委員として、入試業務が問題なく行われるよう、取り組んだ。
 - ②入試委員会の専門部会である「入学者選抜専門部会」に継続して参加し、その成果は「入学者選抜に関する追跡調査」としてまとめられた。
 - ③研究推進委員会委員として、研究紀要などを通し、研究活動の推進に努めた。
- また、計画には含めていなかったが、現在英語コースのHPの更新作業を担当しており、2011年度には新しいHPを公開することができたことも大学運営への貢献の一つだと考える。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

附属学校・社会との連携・国際交流等について、以下の目標を持ち、活動を行いたい。

- ①附属学校での研究会、実習に積極的に参加し、教育面・研究面での連携を深める。
- ②大学共同利用機関法人である国立国語研究所のプロジェクト(日本語学習者用基本動詞用法辞典の作成)に、昨年度より共同研究者として参加予定しているが、今年度も継続して参加する予定である。このプロジェクトの成果は公開され、国内外の英語母語話者を含む日本語学習者の学習に大きく貢献できると考えられる。
- ③公開講座と免許更新講習などに積極的に携わり、地域への教育研究活動の還元を目指したい。
- ④国際交流に関しては、特に学内での留学生への支援、国際交流活動に積極的に参加したい。

2. 点検・評価

以下のように年度計画を達成することができた。

- ①附属学校での研究会や実習時の訪問を積極的に行い、ふれあい実習の引率や、主免実習の際に数度訪問し、担当の附属教員と様々な情報交換を行い、実習生への助言を行った。
- ②国立国語研究所のプロジェクトに継続して参加し、現在学習者辞書作成作業に携わっている。このプロジェクトは、国内外の日本語学習者を支援するものであり、広く社会に貢献できるものと考えている。
- ③8月に公開講習、免許更新講習を行い、地域への教育研究活動の還元を目指した。
- ④教育支援アドバイザー事業で、洲本高校(兵庫県)で出張講義を行い、地域の学生の現状などについても意見交換を行うことができた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

今年度は着任2年目ということもあり、計画外のものも含め、昨年度に比べ様々な取り組みができたと考えている。来年度以降も、今年度と同様、教育研究に積極的に取り組んでいきたいと考える。特にアドバイザー事業も含め、学校教育の現場とその実情について積極的に把握し、教育研究活動を進めたい。